

## 研究成果

臨床人間学が大学生、看護学生、看護婦、大学院生、社会人、ターミナルケア専門家などを対象に実践し、いずれも大きなインパクトを与え得ることが判明した。

生・老・病・死のテーマを周期的に変えて通年の授業を行うことは学習者の強い興味を持続させるのに有効であることが判明した。

生・老・病・死のテーマから家族・性・世代・教育・愛・言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション・共感・医療におけるコミュニケーションなどのテーマに課題を広げて試みたが学習者の強い関心を集められた。

医学専門学群の1年次必須化後の学生の留年率がそれ以前の学生と比較して有意に低下した。

全学の授業で行ったアンケートからは多くのテーマで各授業開始時の考えと年度末の授業終了時の考えに有意な変化が認められた。

また平成11年度、全学学類専門学群代表者会議と教育課程専門委員会で行った授業に関する全学の学生アンケート調査の結果、「臨床人間学」は学生の支持で第1位の授業に選出された。平成11年8-9月にスウェーデンで開催された「ヨーロッパ医学教育国際会議」において臨床人間学はそのユニークな方法と内容と教育効果に対して各国の専門家から高い賞賛を集めた。平成12年2月にイスラエルで開催された「医学校における倫理教育国際会議」においては臨床人間学のその後の進展と成果が注目された。